

平成30年度 小野市当初予算 説明資料

《 夢 》

市役所庁舎移転・新築
ひょうご小野産業団地

《子ども》

4・5歳児教育・保育無料化
高3まで医療費完全無料化

《高齢者》

エイジ・ルネサンス
シニアの生きがい・活躍

“NEXT おの” 創生

3rd Trial

～次世代へつなぐ新たなまちづくり～

各 会 計 の 概 要

(単位：千円、%)

| 年度 | | 平成30年度 | 平成29年度 | 比較 | 増減率 | 備考 |
|------------------|---------|------------|------------|-------------|--------|---|
| 会計別 | | | | | | |
| 一 般 会 計 | | 21,300,000 | 20,170,000 | 1,130,000 | 5.6 | 新庁舎建設、主要幹線道路整備、消防南分署改修、保育給付・放課後サービス増加 「新・学校給食センター」4月オープン 「消防北分署」4月オープン 「秘湯・鋤溪温泉」5月オープン |
| 特 別 会 計 | 国民健康保険 | 5,380,000 | 7,013,000 | △ 1,633,000 | △ 23.3 | 国民健康保険制度の改正（財政運営主体は都道府県） |
| | 介護保険 | 3,978,000 | 3,934,000 | 44,000 | 1.1 | 要介護認定者数の増加、介護報酬のプラス改定 |
| | 後期高齢者医療 | 566,000 | 524,000 | 42,000 | 8.0 | 被保険者数の増加 |
| 企 業 会 計 | 都市開発事業 | 53,000 | 17,500 | 35,500 | 202.9 | 関連公共事業負担金の増加 |
| | 水道事業 | 2,311,000 | 1,804,000 | 507,000 | 28.1 | 重要給水施設配水管整備事業等工事の増加、内部留保資金の活用 |
| | 下水道事業 | 3,252,000 | 3,244,000 | 8,000 | 0.2 | 「ひょうご小野産業団地」の雨水幹線管渠布設工事等 |

① 将来を担う子どもを産み育てる環境の充実



（継続）高校生までの医療費完全無料化 2億6,280万円

平成18年度に県内初として小学校3年生までの医療費を所得制限なしで無料化。その後、順次対象年齢を引き上げ、平成28年度からは高校3年生まで拡大。小野市の“徹底した子育て支援”の代名詞の一つ。

（所要額は、中学校3年生までが2億2,720万円、高校生が3,560万円）

（継続）4・5歳児幼児教育保育料無料化 2億3,000万円

4・5歳児の幼児教育・保育料の所得制限なしでの無料化（給食費相当分を除く）を継続実施。0～3歳児の軽減分を合わせると、保護者の負担は3億1,000万円軽減される。これもまた小野市の“徹底した子育て支援”の代名詞の一つ。

（継続）新生児聴覚検査の助成 180万円

聴覚障がい早期発見・早期療育を推進するため、新生児聴覚検査費を助成する。

（継続）産婦健康診断費の助成 290万円

産後うつ予防や新生児への虐待予防等を目的に産婦健康診断費を助成する。

（OPEN）「新学校給食センター」本格稼働

副食を2品から3品に増やすとともに、地産地消メニューの拡充や食物アレルギー除去食の提供も開始する。ドライシステムを導入した調理場は衛生管理が向上するなど、更なる安全・安心な給食の提供が平成30年4月11日（水）から始まる。

（新規）切れ目のない教育支援体制の整備 600万円

顕在化する発達障害に対して、早期発見と適切な支援を就学前から高校まで切れ目なく展開するため、早期支援コーディネーター等の専門家を5名配置し、専門的な指導や教育相談、就学先決定等を支援する。

（継続）小中一貫教育の推進 1,620万円

小中一貫教育推進の4年目。校務支援システムや到達度テストにより義務教育9ヶ年の情報を一元管理し、小中学校間でのデータ共有により、児童・生徒の円滑で適切な指導を行う。

（新規）学校施設長寿命化計画策定 2,000万円

中長期的な維持管理コストの縮減と投資の平準化を図るとともに、学校施設に求められる機能や性能を確保するため、建物ごとに老朽化状況や維持・更新コスト等を整理した「長寿命化計画」を策定する。

②アクティブシニアの活躍と生涯現役スタイルの創出

(OPEN) 秘湯「鋤溪温泉」の再生

古くから薬効のある温泉として、地元で受け継がれてきた鋤溪温泉（下来住町）が5月にリニューアルオープン。地域住民の熱意と市の支援により、新たな観光施設、地域のコミュニティと高齢者の生きがい就労の拠点として再生する。



(新規) おのアクティブポイントの導入 5,800万円

市民による健康づくりや介護予防の取り組み、シニア世代の有償・無償ボランティア活動等に対してポイントを付与。ポイントを収集し特典への交換を通じ、アクティブシニアの社会参加を拡大し健康寿命の延伸を図る。

(継続) 地域のきずなづくりへの支援 1,000万円

自治会の諸活動に支援を行い、地域力の強化や高齢者の生きがいづくりにつなげる。社会奉仕・健康増進などの活動に対し、年間最大20万円を助成する。



(継続) シルバー人材センター運営費の助成 1,180万円

定年退職後のシニア世代の能力活用・生きがいづくりを促進し、地域社会の活性化を図るため、シルバー人材センターの運営費を助成する。

(継続) 地域づくり協議会への助成 2,100万円

市内6地区の地域づくり協議会の活動を支援。それぞれの協議会が独自に企画・実施する地域活性化活動に対し、補助金を交付する。

(継続) エイジ・ルネサンス・パーティの開催 450万円

65歳を迎える市民を対象に、第二の成人式を開催。シニア世代に、「生涯現役」をめざすきっかけづくりを行う。平成30年度で19回目。

(継続) 地域活動シニアサポートモデルの推進 750万円

シニア世代の持つ知識・経験・技能を多様な分野で発揮する、シニアグループの地域貢献活動に係る事業立上げ費用と運営に係る費用（3年目まで）を補助。4年目となる平成30年度は、7団体（うち、新規2団体）に交付予定。



③安全・安心で暮らしやすいまちの追求

(OPEN) 消防署北分署の開署

旭丘中学校西側に第3の救急拠点となる消防署北分署が平成30年4月8日(日)に開署。高齢化に伴い高まる救急需要に備え、市内全域どこでも10分以内に到着可能な体制を構築。



(新規) 消防署南分署の大改修に着手 8,500万円

開設から26年が経過した消防署南分署の大規模改修に着手。施設の長寿命化・機能向上を図り、市民の安全・安心を守る拠点を再整備する。

(継続) コミュニティバスの運行 1億390万円

8台11ルート of 運行を継続。平成15年度から運行を開始した車輛のうち1台を更新予定。交通弱者の移動手段確保とともに商業施設・公共交通機関の活性化を図る。

(継続) 安全安心パトロールの展開 5,600万円

専用車両8台、専任のパトロール隊員15名により市内の巡回を実施。平成30年度はパトロール車1台を更新する。

(継続) 片山高田線の道路改良 2億円

多くの学生が通学路として利用する市道107号線の道路改良事業。平成30年度は、昨年度に引き続き用地購入を進めるとともに、道路改良工事にも着手する。

(新規) 災害等緊急情報伝達システムの整備 2,330万円

大規模化・多発化する災害に対して多様な情報伝達手段を構築するため、小中学校13施設においてJアラート等の緊急情報を瞬時に流す伝達システムを整備する。

(拡充) 有害鳥獣による農作物被害対策 490万円

近年多発する有害鳥獣による農作物被害に対して侵入防止柵設置を新たに市単独で補助。国の防護柵設置事業も活用しつつ、農作物被害の未然防止を図る。

④新たな魅力を創造するまちづくりの推進

(継続) ひょうご小野産業団地整備の推進 2億6,250万円

県と共同で市場地区に新産業団地を整備。平成31年度から一部分譲開始予定。平成30年度は、幹線道路である新都市南北線や下水道等のインフラ整備を実施する。



(継続) 新庁舎の整備 12億5,000万円

夢と誇りのランドマーク「新庁舎」は、平成31年度の完成をめざす。平成30年度からは本体工事に着手する。



(継続) 小野ハーフマラソンの継続実施 700万円

冬のおの恋として定着しつつある小野ハーフマラソンの継続実施。平成29年度の当日参加者数は4,953人。第5回大会に向けてランナーの意見を反映し、全国に冬のおの恋を発信する。

(継続) 浄谷黒川多目的運動広場の整備 2億6,350万円

総事業費11億円、平成32年春完成予定。4種公認陸上競技場、人工芝サッカー場等を整備。災害時の自衛隊キャンプ地機能も併有する。平成30年度は全天候型400mトラックの整備を実施する。



(拡充) 第41回小野まつりの助成 5,400万円

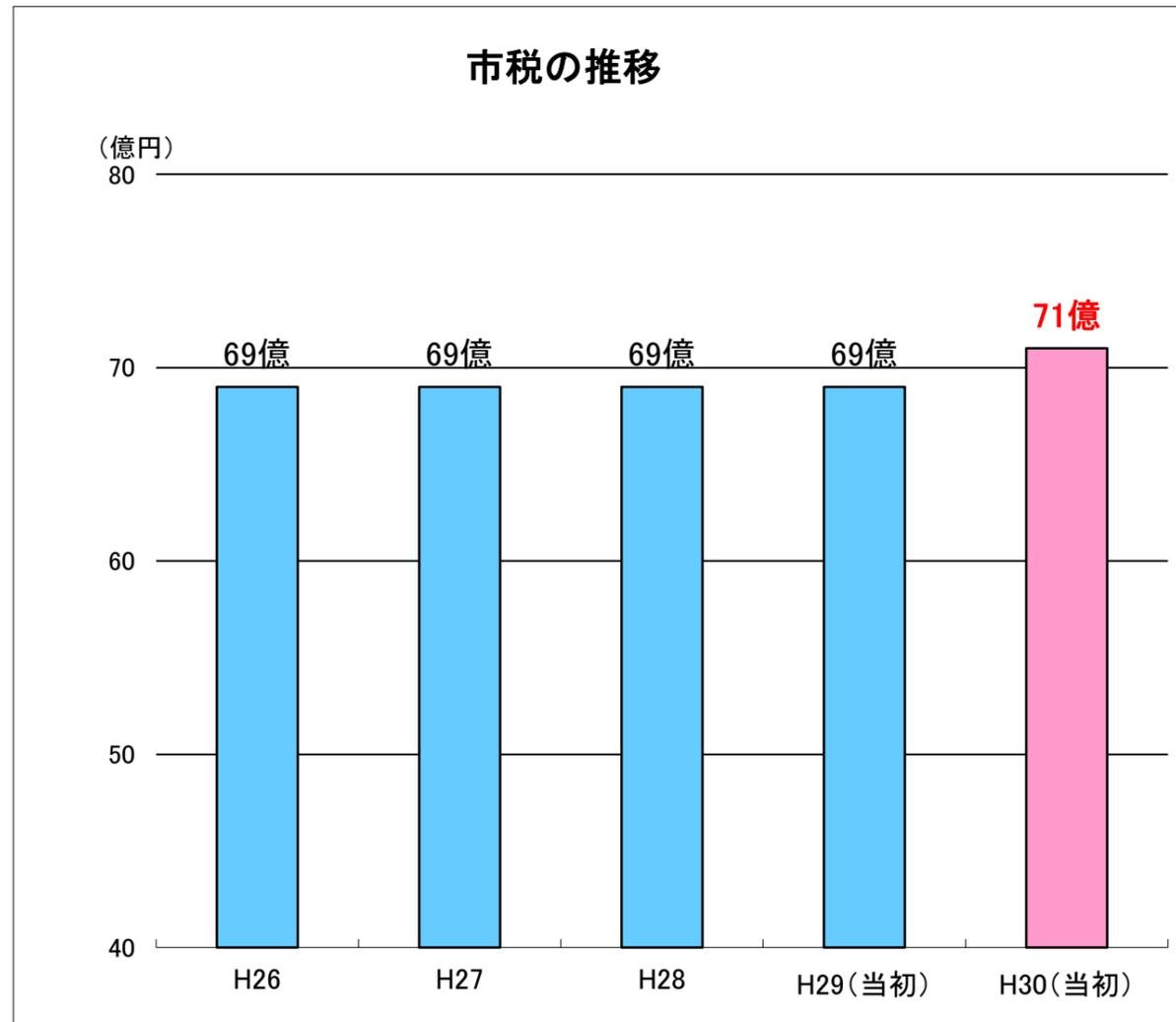
平成30年8月18日(土)、19日(日)に開催予定。大池市民広場ステージの照明の充実や来場者の増加に伴う警備を強化する。ものおこし、ことおこし、ひとおこしによる賑わいを創出し、全国に小野市を発信する。



(継続・H29 繰越) シビックゾーンの賑わい創出 2,800万円

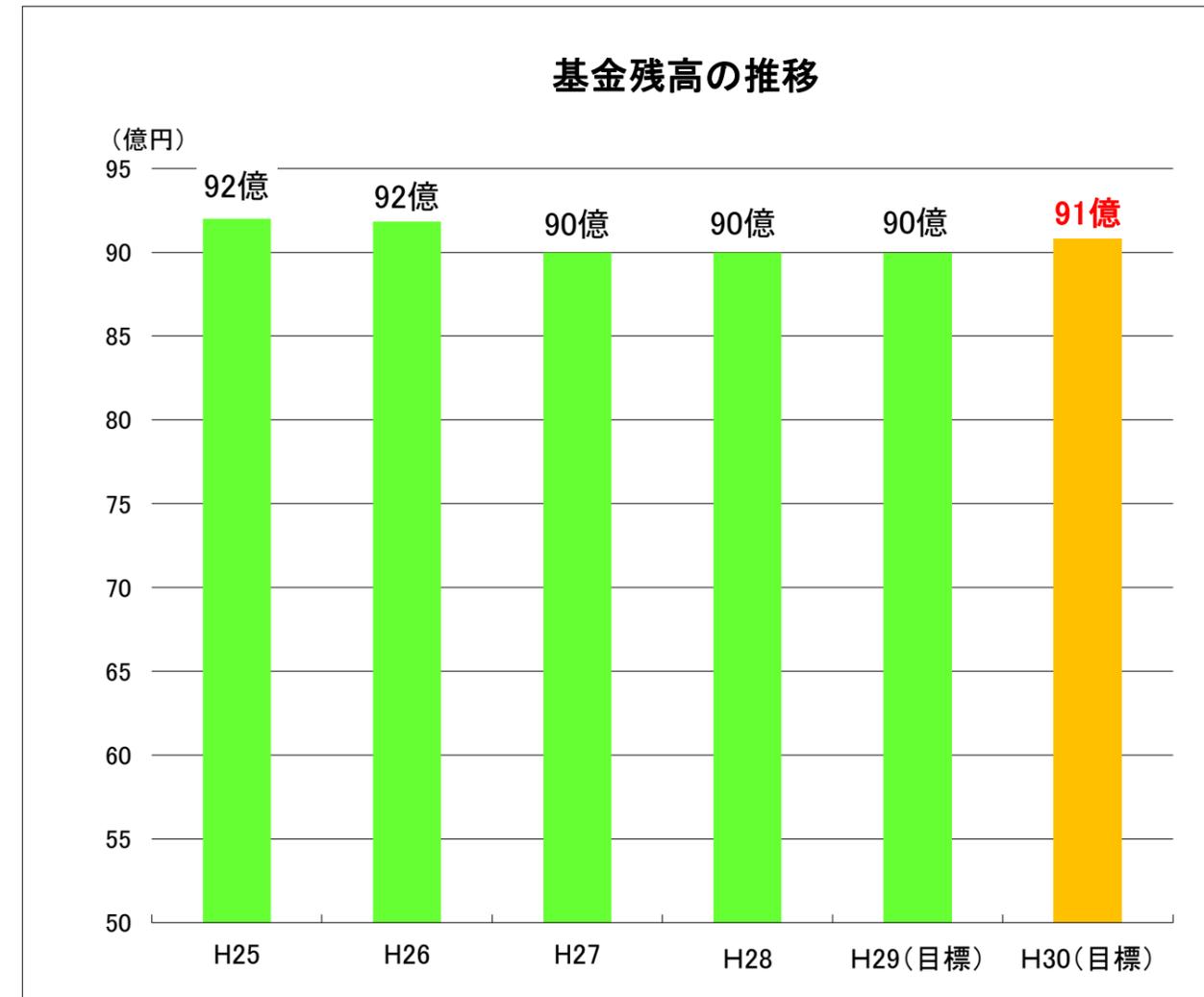
敷地町「ソロ池」の噴水設置とライトアップの演出は、民間開発による商業施設の進出と相まって新たなにぎわいを創造する。

1 市税



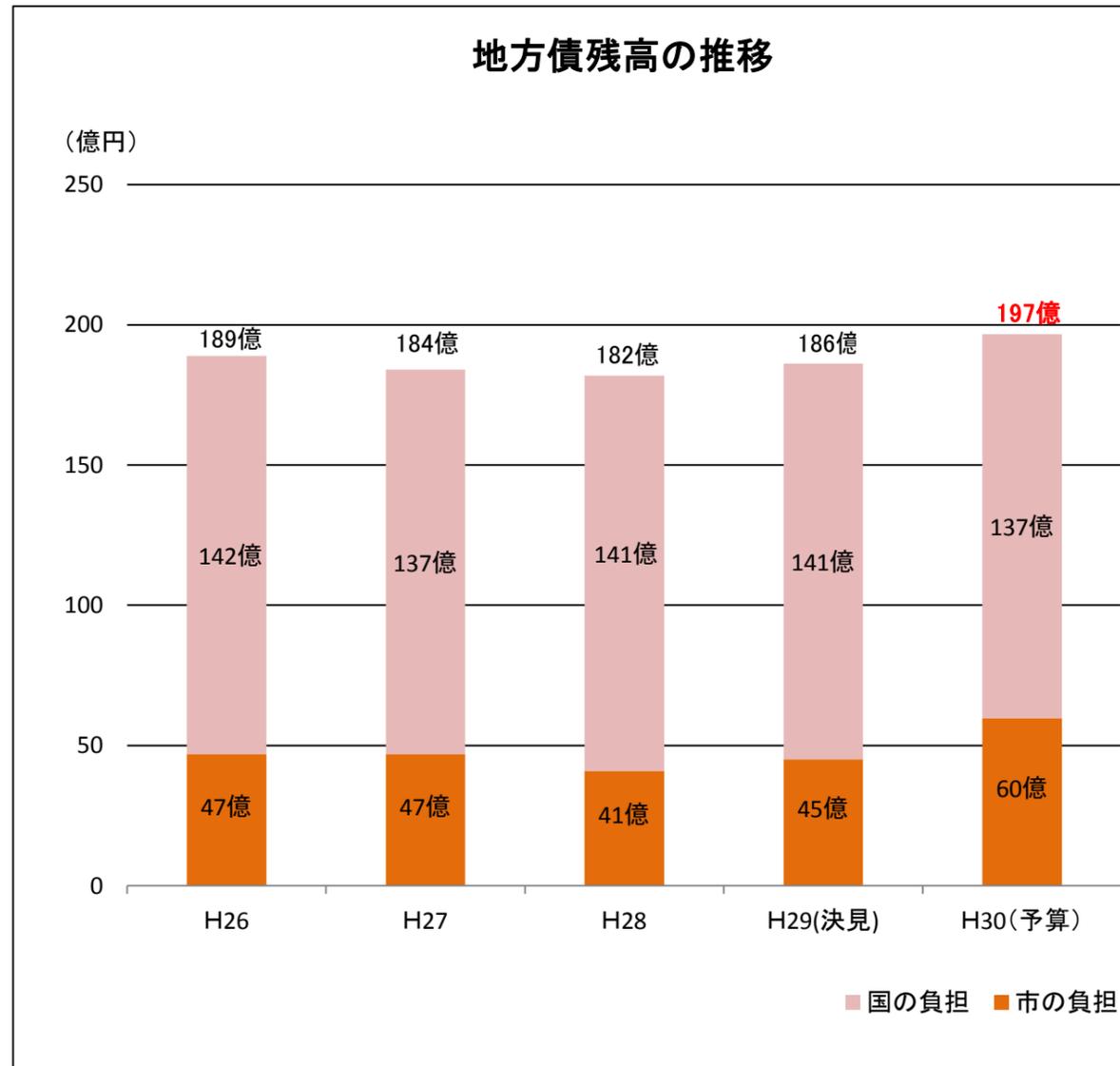
平成30年度の市税は、個人・法人市民税、固定資産税等の増により当初予算としては10年ぶりに70億円台を見込む。

2 基金残高



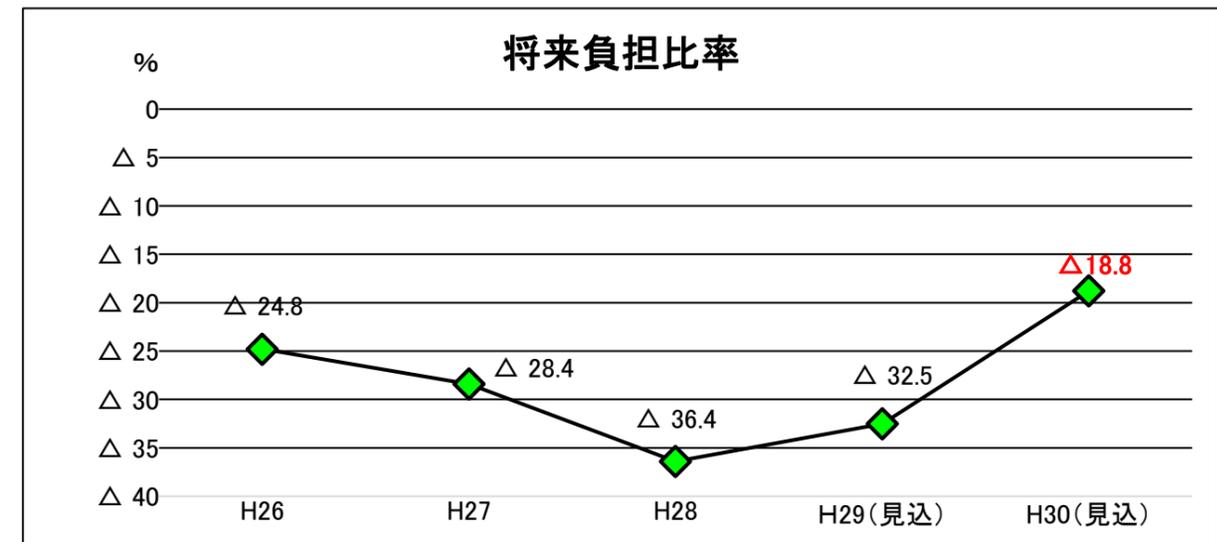
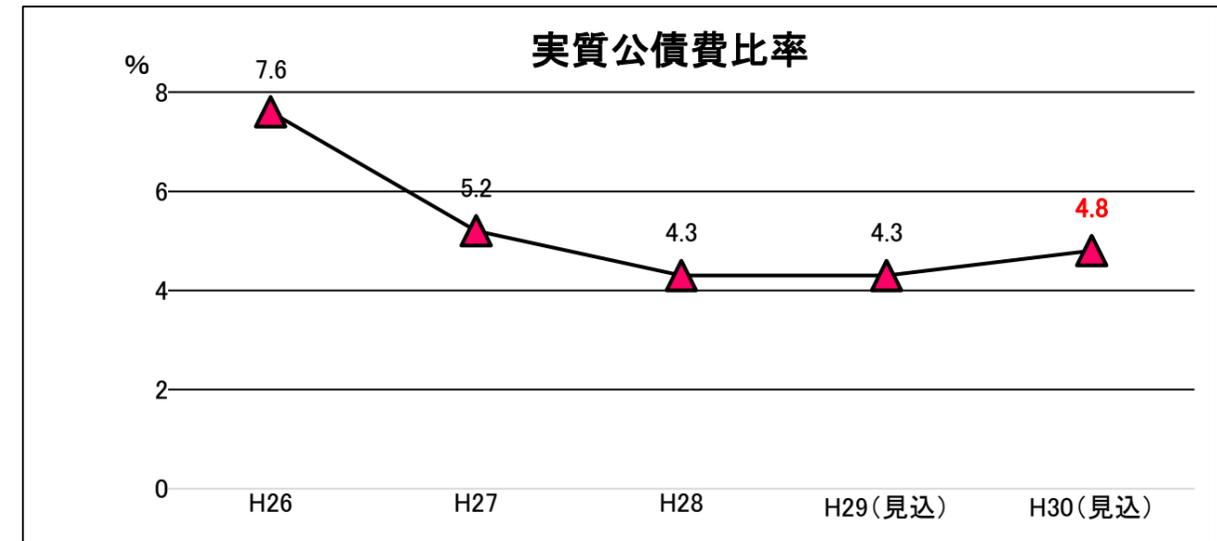
平成30年度末の基金残高の目標値は、91億円。
予算ベースでは、財政基金の取崩額が7.0億円あるが、コスト削減と不用額の捻出等により取崩額の抑制を図る。

3 地方債残高



平成30年度の地方債残高は197億円。
後年度に受けられる国の補填を見込むと、市の実質負担額は残高の3割相当の60億円となる。

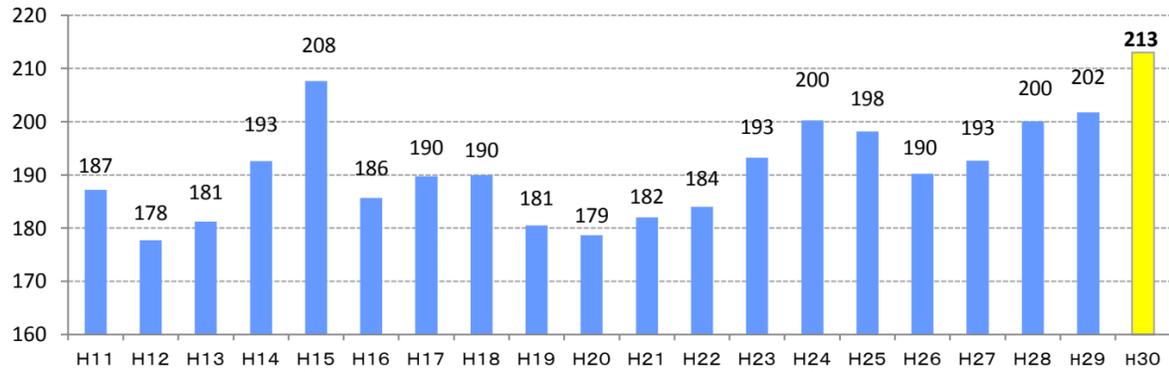
4 財政健全化指標



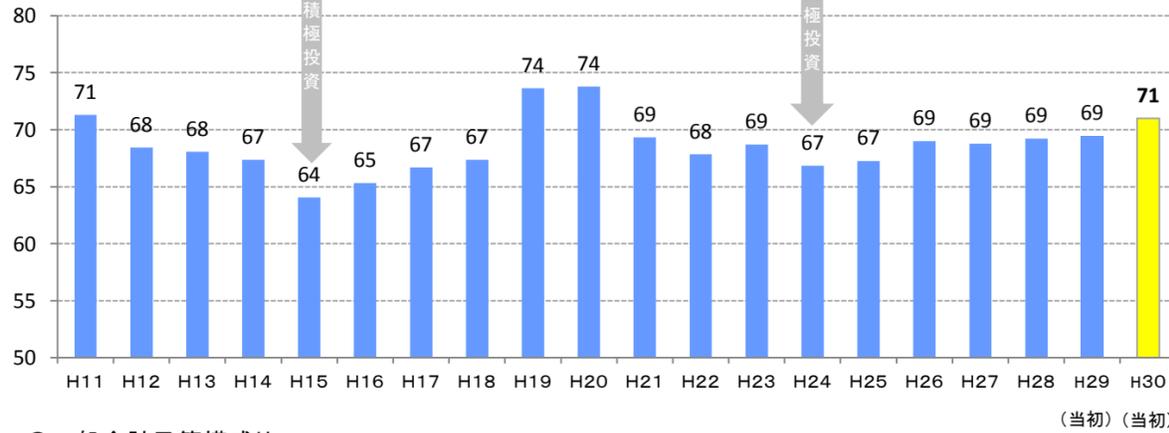
実質公債費比率は、地方債を財源とする大型事業の実施により公債費の増加とともに上昇する。将来負担比率も同様に上昇するものの、充当可能基金の適正管理、国から補填される地方債の活用等により引き続き優良値を維持。

平成30年度 一般会計予算額等

●一般会計予算額の推移
(億円)

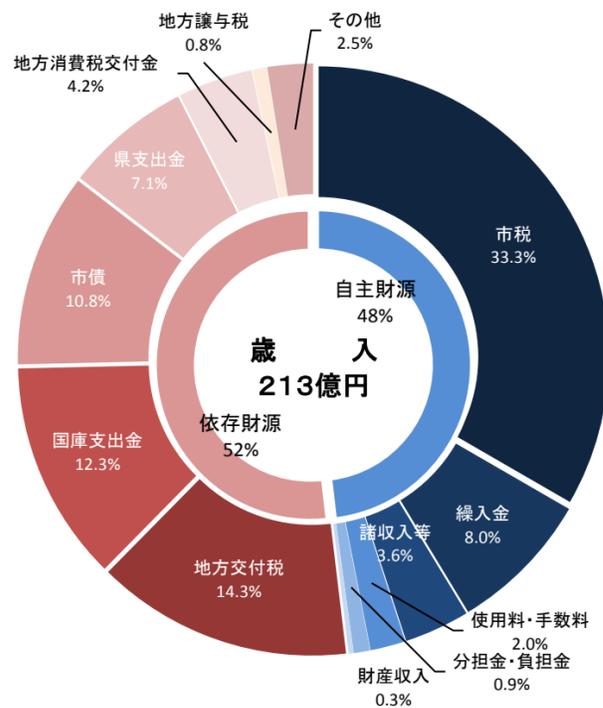


●市税収入額の推移
(億円)



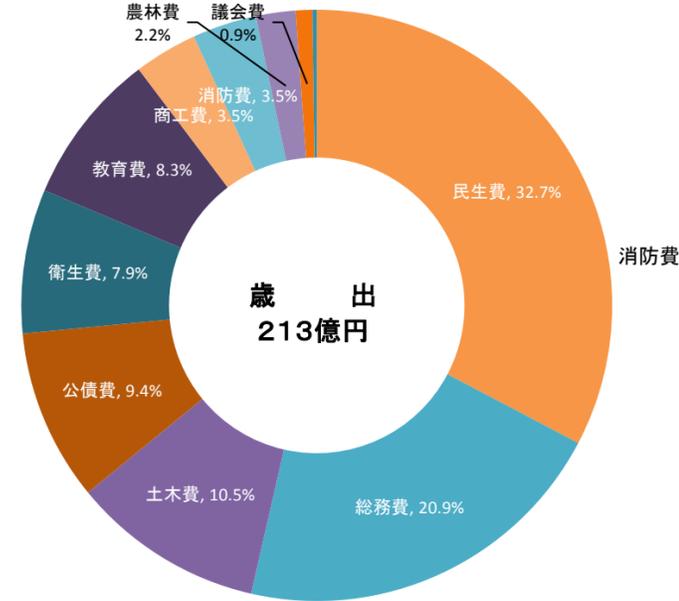
●一般会計予算構成比

【歳入】



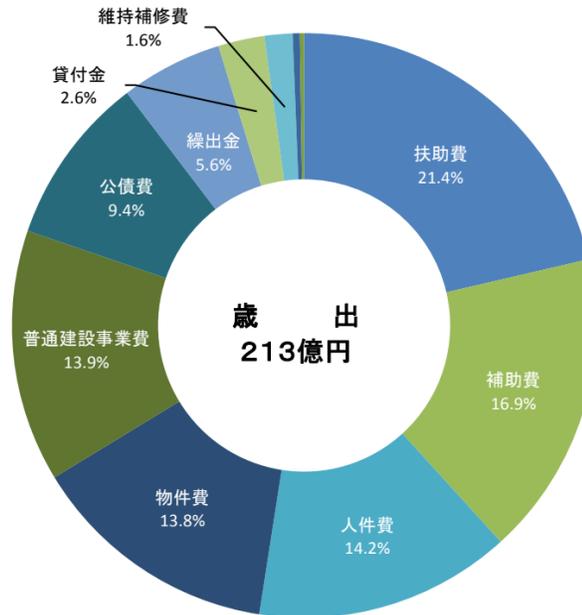
| | H30 | | H29 | |
|-------------|-------------------|------------|-------------------|------------|
| | 金額 (千円) | 構成 (%) | 金額 (千円) | 構成 (%) |
| 市税 | 7,100,168 | 33.3% | 6,945,240 | 34.4% |
| 繰入金 | 1,702,036 | 8.0% | 1,145,111 | 5.7% |
| 諸収入等 | 776,369 | 3.6% | 757,661 | 3.8% |
| 使用料・手数料 | 417,606 | 2.0% | 422,684 | 2.1% |
| 分担金・負担金 | 194,163 | 0.9% | 248,310 | 1.2% |
| 財産収入 | 56,746 | 0.3% | 61,984 | 0.3% |
| 自主財源 | 10,247,088 | 48% | 9,580,990 | 48% |
| 地方交付税 | 3,040,000 | 14.3% | 3,130,000 | 15.5% |
| 国庫支出金 | 2,612,065 | 12.3% | 2,394,425 | 11.9% |
| 市債 | 2,299,900 | 10.8% | 2,095,200 | 10.4% |
| 県支出金 | 1,502,801 | 7.1% | 1,473,239 | 7.3% |
| 地方消費税交付金 | 890,000 | 4.2% | 830,000 | 4.1% |
| 地方譲与税 | 169,000 | 0.8% | 164,000 | 0.8% |
| その他 | 539,146 | 2.5% | 502,146 | 2.5% |
| 依存財源 | 11,052,912 | 52% | 10,589,010 | 52% |
| 合計 | 21,300,000 | | 20,170,000 | |

【歳出:目的別】



| | H30 | | H29 | |
|-----------|-------------------|--------|-------------------|--------|
| | 金額 (千円) | 構成 (%) | 金額 (千円) | 構成 (%) |
| 民生費 | 6,967,361 | 32.7% | 6,694,230 | 33.2% |
| 総務費 | 4,442,455 | 20.9% | 3,707,166 | 18.4% |
| 土木費 | 2,242,126 | 10.5% | 2,127,465 | 10.5% |
| 公債費 | 1,999,792 | 9.4% | 2,042,428 | 10.1% |
| 衛生費 | 1,678,819 | 7.9% | 1,709,308 | 8.5% |
| 教育費 | 1,777,499 | 8.3% | 1,699,338 | 8.4% |
| 消防費 | 747,755 | 3.5% | 723,661 | 3.6% |
| 商工費 | 738,604 | 3.5% | 722,081 | 3.6% |
| 農林費 | 462,081 | 2.2% | 500,576 | 2.5% |
| 議会費 | 193,502 | 0.9% | 193,741 | 1.0% |
| 予備費 | 50,000 | 0.2% | 50,000 | 0.2% |
| 災害復旧費 | 6 | 0.0% | 6 | 0.0% |
| 合計 | 21,300,000 | | 20,170,000 | |

【歳出:性質別】



| | H30 | | H29 | |
|-----------|-------------------|--------|-------------------|--------|
| | 金額 (千円) | 構成 (%) | 金額 (千円) | 構成 (%) |
| 扶助費 | 4,549,748 | 21.4% | 4,335,858 | 21.5% |
| 補助費 | 3,598,360 | 16.9% | 3,661,636 | 18.2% |
| 人件費 | 3,026,207 | 14.2% | 3,033,492 | 15.0% |
| 物件費 | 2,948,348 | 13.8% | 2,901,808 | 14.4% |
| 普通建設事業費 | 2,970,447 | 13.9% | 2,501,096 | 12.4% |
| 公債費 | 1,999,792 | 9.4% | 2,042,428 | 10.1% |
| 繰出金 | 1,197,991 | 5.6% | 1,173,466 | 5.8% |
| 積立金 | 545,409 | 2.6% | 330,400 | 1.6% |
| 貸付金 | 330,400 | 1.6% | 90,285 | 0.4% |
| 維持補修費 | 83,292 | 0.4% | 49,525 | 0.2% |
| その他 | 50,000 | 0.2% | 50,000 | 0.2% |
| 災害復旧 | 6 | 0.0% | 6 | 0.0% |
| 投資及び出資金 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 合計 | 21,300,000 | | 20,170,000 | |

義務的経費の推移

| | H27 | H28 | H29 | H30 |
|-----------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 人件費 | 3,102,410 | 3,028,674 | 3,033,492 | 3,026,207 |
| 扶助費 | 4,164,679 | 4,234,686 | 4,335,858 | 4,549,748 |
| 公債費 | 1,874,635 | 2,011,871 | 2,042,428 | 1,999,792 |
| 合計 | 9,141,724 | 9,275,231 | 9,411,778 | 9,575,747 |
| 割合 | 47.2% | 47.4% | 46.4% | 45.0% |

